

地域ぐるみで育てる学校

美麻小中学校コミュニティ・スクール・・・



美麻小中学校
学校支援コーディネーター
前川浩一

美麻小中学校コミュニティ・スクール
象徴的な記念写真
(ボラ・PTA・先生・生徒)
H27.5美麻小中学校
合校の森完成式典
(緑の基金助成事業)

私のプロフィール

•平成4年 大阪府より旧美麻村(現大町市美麻)に移住

•現在の職業

地域づくり交流業

自営業(民宿・飲食店経営)

NPO法人理事長

美麻小中学校コミュニティ・スクール 学校支援コーディネーター

長野県(信州型)コミュニティ・スクールアドバイザー

大町市定住促進アドバイザー

•役職等

美麻地域づくり会議(住民自治組織)会長

メンドシーノ交流ボランティアネットワーク代表

安曇野アイターン友愛会会長

大町市総合計画審議会審議委員

大塩地区自治会役員

松本盲学校学校評議員



大町市について

- 人口約28000人
- 常盤・社・大町・平・美麻・八坂6地区
- 3つの湖(木崎湖・中綱湖・青木湖)
- 河川(高瀬川・金熊川・土尻川・犀川)
- ほとんどが森林と北アルプス
- 歴史と伝統的な祭り(流鏝馬)
- 観光・スキー 黒部ダム



美麻地区について

- 大町市美麻地区に2006年合併
- 5つの自治会地区
- 住民自治組織(地域づくり会議)
- 人口997人(2016.2.28)
- 移住者の割合が40%以上
- 美麻小中学校小中一貫CS
- 子どもたちの国際交流を25年間
- かつて麻栽培で栄えた村
- そばの村



住民自治のまち 美麻地域づくり会議

地域の良さを再発見して地域を見直そう
地域のことは地域で何とかしよう

- H18年の3市村の合併とともにH18年5月発足(住民自治組織)
会員: 自治会・公民館・学校・保育園保護者会・PTA・地域団体・同好会など約50の組織・個人
財源: 会費・協賛金・助成金・使用料・参加費など
- 地域事業の主催・共催
地域イベント(運動会・敬老会・文化祭など)
伝統文化継承事業・地域活性化事業・草刈り支援
- 情報発信・広報
広報みあさづくり通信・住民ディレクター制度
コミュニケーションブック(電話帳)・美麻Wiki(HP・FB)
先進地視察・研修会
- 美麻市(朝市)
- ふるさと交流・定住促進事業
ふるさと美麻会との交流・地域交流・移住促進事業
- 特産品開発
花豆(総合学習市民科との協働)
- 会員支援
公募による支援
- 学校支援事業(学社融合事業)・保育園支援事業
※将来地域を担う子供たちに郷土理解で地域の可能性を発見



住民による情報発信

- だれでも使えるHP
- 情報交流
(発信&収集)
- 動画ネットTV配信
- データバンク
- 協賛会員確保
- フェイスブック導入
- **学校の授業での活用**

住民手作りホームページ「美麻WIKI」

<http://miasa.info>



住民手作り広報「美麻づくり通信」

- 印刷機・紙折り機導入
- 支所・学校や保育園も編集に参加

地域の魅力発見

- 住民がまず地域の魅力を知る
(住民が地域の良さを知らない)
- 子供たちにも知ってもらおう



学社融合からコミュニティ・スクールへ

(1) 国際交流による住民によるボランティア活動の継続

・アメリカカリフォルニア州メンドシーノ国際交流

平成4年の第1回訪問以来の小学校5・6年生の隔年訪問交流と翌年の来日訪問交流の継続
行政と学校と地域ボランティアの協力による訪問の企画とサポート(企画・連絡・随行・報告会など)



(2) 合併後の地域づくり活動としての学社融合

- ・加納治五郎柔道置復元事業
- ・デザインコンテストへの生徒の参加
- ・はちみつ絞り体験
- ・住民ディレクター事業への参加(CM大賞への応募)
- ・美麻wikiの授業への利用



H23年からの地域づくり会議の学社融合事業

- ・ 地域づくり会議の重要事業の一つとして位置付け
- ・ 事業の打ち合わせ(学校・大学・地域づくり会議)
- ・ 動機付け授業(地域づくり会議への理解と地域の課題)

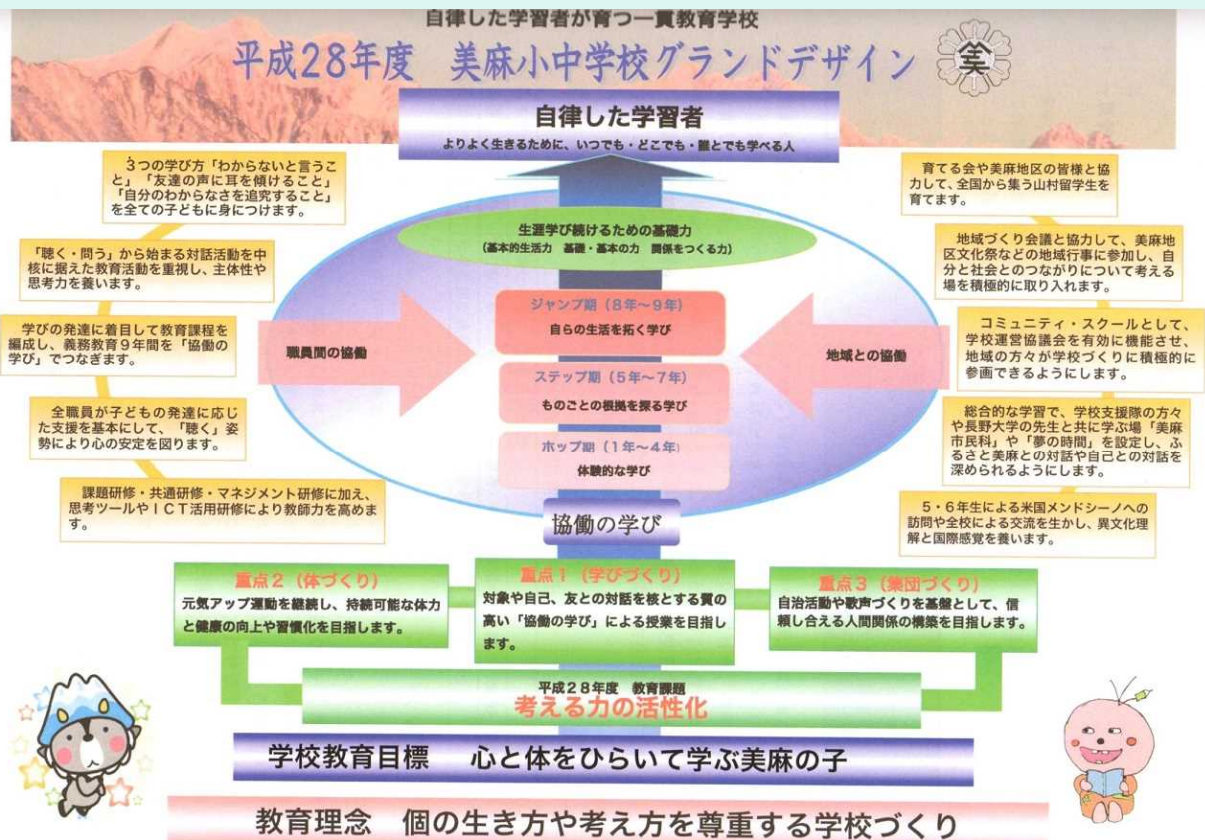


小中一貫コミュニティ・スクールそして小規模地域特認校へ

- H25年8月 コミュニティ・スクール推進委員会発足(委員住民など16名)
識者の講義、視察研修等を行ない、地域理解とシステムづくりを行う
(講師:信州大学教育学部伏木教授・視察:飯山市秋津小学校・木島平村木島平小学校中学校)
- H25年10月より 学校支援コーディネーターの配置
- H26年12月より 学校支援ボランティアの募集
- H26年1月より 学校支援ボランティアとして地域住民が学校支援を実施(信州型CSの実施)
- H26年1月 コミュニティ・スクール・シンポジウムを推進委員会・地域づくり会議共催で実施
- H26年2月 住民による視察研修(地域づくり会議主催)
(習志野市:秋津小学校・横浜市:東山田中学校・平塚市:富士見小学校)
- H26年3月 コミュニティルームの開設(地域づくり会議の支援)
- H26年4月 小中併設校から、小中一貫(文科省・信州型併用型)コミュニティ・スクール開校
地域住民により学校運営協議会を設置
- H26年7月 特認校制度に向けての希望者向け学校公開
- H27年4月 小規模地域特認校制度導入(H27:10人・H28年12人)

協働の学び(グループ学習)
美麻小中の授業のすべて

元気アップ運動・毎日15分(公民館の支援)
美麻小中の授業の柱の一つ



自律した学習者が育つ一貫教育学校

【経営ビジョン】

目指す学校像
授業を根幹と考える学校

教育概要

＜ 一貫教育のねらい ＞

個の生き方や考え方を尊重する学校づくりにより、児童生徒が心と体をひらいて学ぶ授業を通して、生涯学び続けるための基礎力を養い、自律した学習者を育成する。

生涯学び続けるための基礎力
基本的な生活力 基礎・基本の力 関係をつくる力
(自立した学習者＝三つの力がバランスよく身についた児童生徒)

(教育理念)
個の生き方や考え方を尊重する学校づくり

(教育目標)
心と体をひらいて学ぶ美麻の子

教育課題
考える力の活性化

(重点2 体づくり)

元気アップ運動を継続し、持続可能な体力・健康づくりや習慣化を目指す。

(重点1 学びづくり)

対象や自己、友との対話を核とする質の高い「協働の学び」による授業実践を目指す。

(重点3 集団づくり)

自治活動や歌声づくりを基盤として、信頼し合う人間関係の構築を目指す。

自律した学習者へと導く学習システム

◇義務教育9年間を4・3・2に区分し、三つの課程を「協働の学び」でつなぎ、5～9年生は教科担任制を実施する。

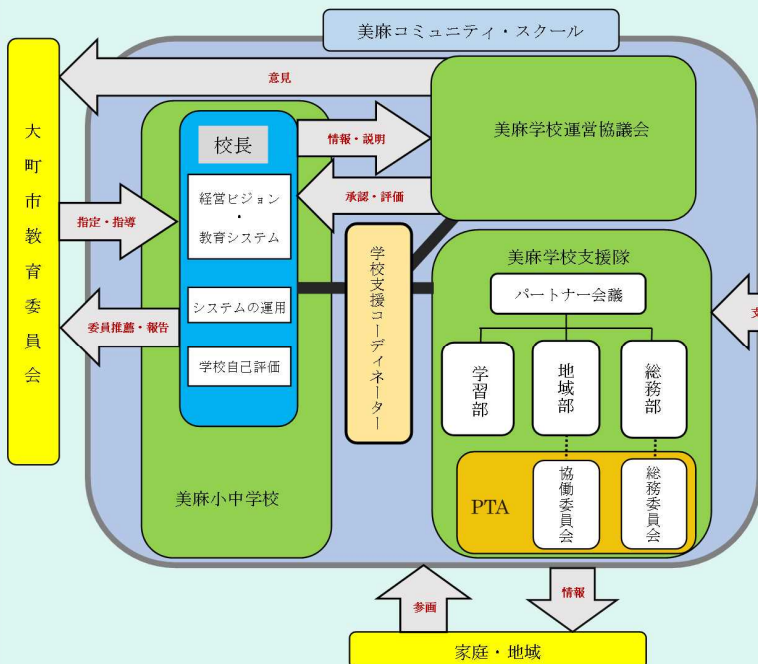
地域・保護者との協働システム

◇地域や保護者、学校運営協議会の声に傾聴し、パートナー会議と協働しながら学校づくりを推進する。

教師力を高める研修システム

◇課題研修・共通研修・マネジメント研修により、教職員一人一人の力量を高め、指導観を更新する。

美麻小中学校のコミュニティースクールのイメージ
(文科省型と信州型CSの併用型)



PTAの連携への取り組み

- 1 総会を開いてPTA規約の改正
 - ・ PTAは支援ボランティアに加入
 - ・ PTA組織を支援部の形と合わせる
 - ・ パートナー会議への参加
- 2 研修会の実施
 - ・ PTA研修会でCSの説明
- 3 PTA行事と支援隊事業の融合
 - ・ 運動会準備・片付け
 - ・ PTA作業(周辺整備・雪囲い)

学校支援隊・パートナー会議の活動

◎パートナー会議

- ・パートナー会議は、学校支援隊の各支援部の代表で構成（支援ボランティア・PTA・教員）
- ・支援内容の協議、問題点について検討、調整を行う

◎支援隊・部会

- ・活動内容の確認・計画・連絡方法の確認
- ・活動内容の反省

◎ボランティア研修会を年2回程度実施

H26第1回 ボランティア研修会

テーマ：支援ボランティアのできることやその意義

講師：CSマイスター 岸裕司さん

H26第2回 ボランティア研修会

テーマ：公民館のあるCS

講師：横浜市立東山田中学校 コミュニティハウス元館長 竹原和泉さん

H27第1回ボランティア研修会

テーマ：東日本大震災でのCSの役割・生徒の活躍

講師：国立教育政策研究所 長田徹さん

H27第2回ボランティア研修会

講師：小平市コーディネータ連絡協議会 布昭子さん

テーマ：①教師の支援ボランティア活用②支援ボランティア課題解決ワークショップ



コミュニティ・ルームの活用

- ・ **地域づくり会議の支援によりできた**
- ・ 運営協議会の事務局
- ・ ボランティアの拠点
- ・ 支援の打合せ
- ・ 放課後塾の開催



学校支援ボランティア各部の活動

学習部

①国際交流支援 美麻小中の授業の特色の一つ

- ・メドシーノ交流訪問時事前学習
- ・メドシーノ交流訪問時随同行(交流支援ボランティアグループ)
- ・メドシーノ交流受入時支援(交流サポート)
- ・メドシーノ交流アート交流支援(アーティストたち) H27～

②その他の支援

- ・放課後学習支援 5年～9年生対象
- ・図書館蔵書整理 H28～
- ・部活支援



学習部

・授業支援

家庭科(調理・裁縫・ミシン)

社会科・国語科・理科

小学生生活(キノコ・山菜とり)

- ・遠足支援 1・2・3・4年生対象
- ・地域交流支援(福祉施設の訪問など)



**学習部・・・美麻小中の授業の柱の一つ
美麻市民科(総合学習授業)支援**

- 地域を知る授業
- 地域の皆さんが授業にかかわる
- 長野大学の教授、学生の指導、援助

研究テーマH28年

- 5年生 稲作(昔の農法)
- 6年生 地域の歴史
- 7年生 美麻の木・植物・山菜・除雪
- 8年生 花豆・CM大賞・写真集
- 9年生 少子化問題(美麻・長野・日本・世界)

研究テーマH27年

- 6年生 地域の歴史(史跡・旧学校)
- 7年生 ゆるきやら活用・地域食材・地質
- 8年生 日本の災害・世界の災害・地域防災
- 9年生 美麻特産食材(花豆・山菜・ジビエ)



学校支援ボランティアの活動

地域部

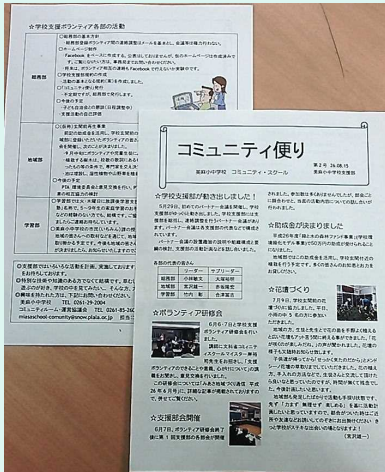
- 子ども自治会の花植え支援
- 種まき・移植支援
- 環境整備(助成金利用)
- 雪囲い (PTA活動協働)
- 山野草園整備
- 運動会準備支援(PTA活動協働)



学校支援ボランティア各部の活動

総務部での活動

- ・ボランティア研修会の企画実施
- ・HPの整備: **美麻Wiki**・**FB情報発信**
- ・コミュニティだよりの発行(**地域づくり会議みあさづくり通信との協働**)
- ・学校支援隊の活動の地域広報
ゆるきゃらグッズの製作体験(**地域づくり会議助成金の支援**) H26



総合学習の支援

・地域づくり会議による支援

子どもたちからの支援要望

- ・ 麻煮・麻かき・縄ないなど体験指導



総合学習成果発表の場の提供

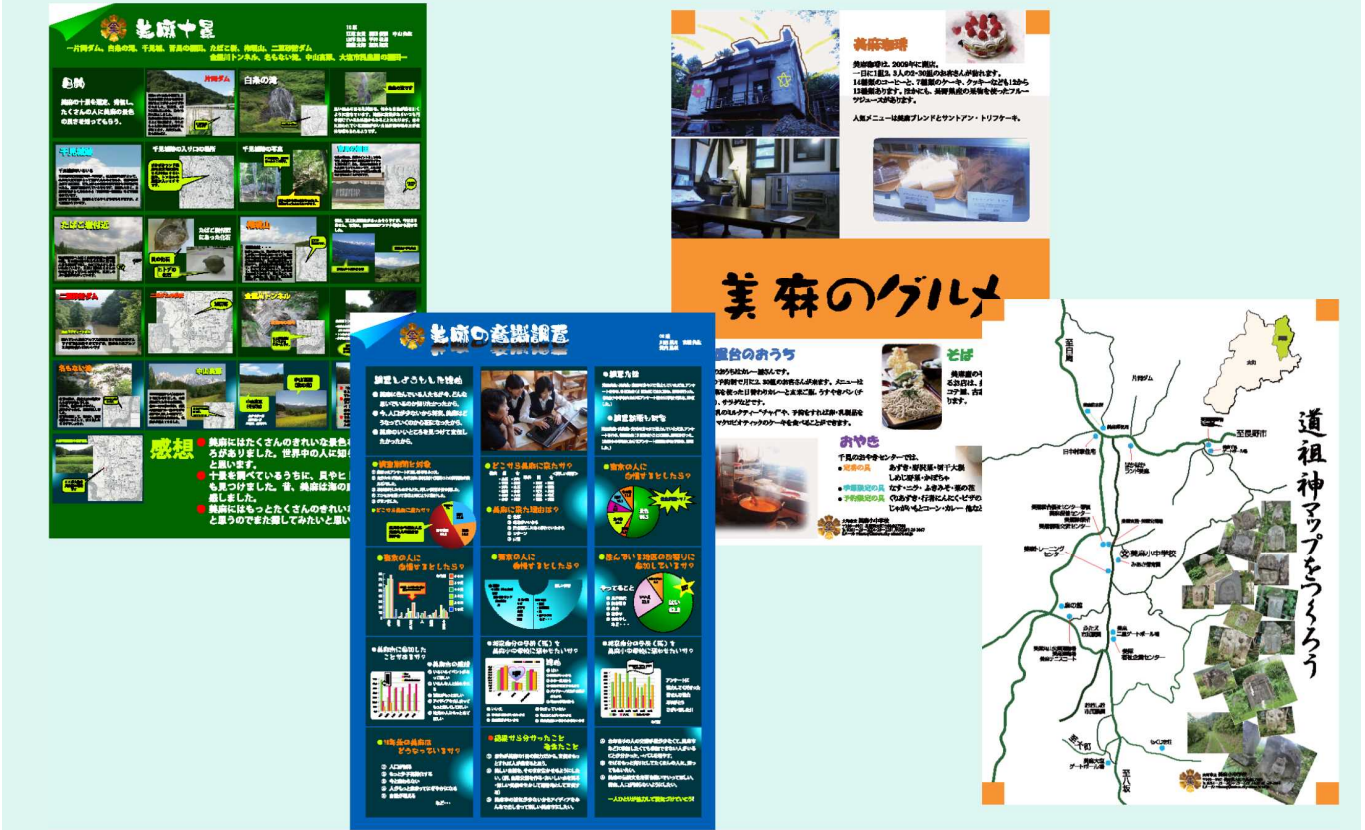
美麻地区文化祭

- ・ 子どもたちが発表
- ・ 子どもたちによる番組制作



発表用パネル作成

- ・地域づくり会議による支援



地域での総合学習成果の利用

地域づくり会議による財政的支援・配布

- ・パンフレット作成
- ・コミュニティカレンダー作成
- ・ゆるきゃらの製作 地域イベントへの活用
- ・新聞の作成



美麻市民科学習の地域貢献

子どもたちの自発的学習が地域活性化につながった例

- 地域の祭りでの獅子舞復活
地元自治会が奮起、お囃子の復活へも動く
- 特産スイーツの開発
地域のお店の商品になる(二重地区花まめや)
- 防災巻の学習で地域防災の提言
各自治会長が参加して共に学ぶ

- 地域の良さ(資源、人材、仕事)を知る
・・・地域を思う気持ち
- コミュニケーション力・思考力・表現力の育成



学校を活用した生涯学習

- 地域づくり会議主催(総務部共催)デザインスクールの開講 (学校のPCルーム)
- 学社融合事業の市民科に招聘している長野大学の禹教授が講師
住民や先生が学び、コミュニティカレンダーのデザインを行う。H25



- 地域住民の給食への参画(食育) H26～
- 地域で育てたイワナを給食に提供し、
生徒にイワナの話をして給食も一緒に食べた。
- 地域のお年寄りの給食(社協の協力) H27～
子供のいない地域もある現実

学校支援コーディネータの役割

1 校長や先生とのコミュニケーション

- 先生方への地域の情報提供
- 地域の人材紹介
- 授業準備・計画への参加
- 先生からの相談(授業支援・生徒や保護者に関すること:いじめ・問題児や親)
- 先生との連絡調整

2 子どもたちや保護者・PTAとのコミュニケーション

- 子どもたちへの相談アドバイス
- 保護者への相談アドバイス
- 移住、転入希望者へのアドバイス

3 地域・住民とのコミュニケーション

- 支援ボランティアのデータ把握
- 支援ボランティアへの連絡
- 地域ボランティアの理解援助(トラブル回避)・アドバイス
- 地域づくり会議(住民自治組織)や自治会との調整・連絡

4 その他(事務・企画・情報発信・交流)

- 研修会など様々な企画発案・素案作り・働きかけ
- 活動資金の調整(学校にあるもの・助成金申請・地域の資金)
- 活動資料配布・送付文書の作成・送付
- 報告書・資料作成
- 視察対応・事例発表講演・情報発信
- 他校コーディネーターとの交流情報交換
- CS研修会や交流会への参加



学校と地域連携・理解の進め方

- 地域広報での情報発信
- 地域広報編集への学校職員の参加
- 地区文化祭発表による地域還元
- PTA研修会でのプレゼン
- 生徒作成の新聞の地域での発行
- 地元紙での広報
- ボランティア活動支援バザーでの啓発
- 複数の地域のサブコーディネーターの存在
(地域づくり活動)
- 職員研修での地域と支援活動のプレゼン
- 地域連携コーディネーター学校職員の設置
- 先生への積極的人材紹介



なぜコミュニティ・スクールなのか？

生徒への教育の内容の向上が第一目標(よい授業の実現)

学校として

- 手の届かないところへのボランティア支援で、教師の負担を減らしよい授業を実現
(先生の授業研究や準備への時間を確保、内容充実)

地域として

- 子どもたちが地域を知ることで地域の後継者づくりになる
- 子どもたち主体の学習が地域活性化へつながる
- 学校教育と生涯教育の融合により地域づくりの拠点となる(地域の人が共に学ぶ)

両方で

- よい教育、よい学校、特色ある教育が地域と学校を守る(地域の評価)

大切な2つのビジョンが重なることにより実現

地域・・・ 地域を守るためによい学校を残したい
(地域づくりビジョン)

学校・・・ 学校を地域に開き良い教育を行いたい
(学校の教育ビジョン)

コミュニティ・スクールになって変わったこと

- 多くの地域の人々が常に学校に来るようになった。
- 大勢が手伝うので短時間で作業ができるようになった。
- 学校がきれいになった。
- 授業が変わり、子どもたちが変わった。
- 子どもたちの応用力、表現、人間関係力が高まった。
- 子どもたち、先生、親、地域の人々の関係がよくなった。
- 登校拒否が減った。
- 地域活性化に役立った。
- 他の地域や学校、移住希望者や山村留学希望者から注目されるようになった。
- 子どもたちが増えた。(移住者・山村留学・特認校)



ここが重要

コミュニティ・スクールとは・・・
住民がただボランティアをするために来る学校ではない

地域住民が、自分たちの学校として学校支援を行うことで子どもたちや先生たちと共に学び、学校運営に参加することで、よりよい教育が実現するように住民と先生が子どもたちのために協働する学校

住民主体のまちづくりとコミュニティスクール

- ・ はじまりは（合併後の）住民の地域の将来に対する危機感

これからも人が住みたい「まち」とは？

- ・ 満足感が得られる やったことが報われる実感のあるまち（成功体験）
- ・ コミュニケーションのあるまち（協働）相手の立場に立てること
- ・ 住民主体のまちづくり（住民が自ら動き、住民の意見を取り入れるまち）
- ・ 多様性を受け入れるまち
- ・ 実現するにはあきらめずに思い続けること

それぞれの連携が重要（美麻地区での例）

- ・ コミュニティスクールによるよい学校づくり（子育て世代に重要）
- ・ 住民主体のまちづくり（住民の積極的な受け入れ意識）
- ・ 市の移住政策
- ・ 移住経験者による定住促進アドバイザーによるサポート

28年9月3日実施（協働の企画）

学校公開+定住促進子育てツアー+地域による炊き出し訓練による交流

